A Direct numerical simulation on detachment process of particle aggregate on plane surface - effect of cohesive interaction between solids -

O. Koike^{*}, R. Tatsumi[†], Y. Yamaguchi^{*}

* PIA, † UTokyo

平板付着凝集体除去の直接的数値計算
- 固体間相互作用の影響 -

小池 修^{*}・辰巳 怜[†]・山口 由岐夫^{*}

除去の仕方

- ・ 主な外場として： 固体壁移動・流体流動（今回）
- ・ 促進手段として： 溶質添加, 温度調整, 振動場・・・

影響因子の候補

- ・ 界面自由エネルギー
- ・ 固体間摩擦, 基板粗度
- ・ 付着物質のレオロジー特性：粘度・粘弾性

研究目的

- ・ 遍在する問題の内, 粒子-流体系をSNAP-Fで再理解したい.
- ・ 本対象から展開してより一般的に理解したい.

獲得知見の展開先： 付着物成長と洗浄, ろ過膜, 研磨, 集塵. . .

解析①：粒子系

-せん断流れ（基板に平行）-

Fig. 8. Snapshots of entrainment process of Deposit-I from the plate surface of $A_s/A = 1.0$ under the shear stress of $\mu\gamma_s = 267$ Pa.

Fig. 10. The number of particles remaining on the plate surface of $A_s/A = 1.0$ as a function of elapsed time for (●) Deposit-I, (▲) II and (■) III under the shear stress of $\mu\gamma_s = 276$ Pa.

- ・粒子数500で固定
- 初期付着面積（表面高さ）を変化
- 付着力・せん断力を変化
- ・平板の他，球面での計算報告もあり

*K. Iimura, S. Watanabe, M. Suzuki et al.,
Chemical Engineering Science **64** (2009) 1455

解析①'：粒子系

-せん断流れ (基板に平行) -

細孔なし基板のケース

*藤平ら, 化学工学会第83年会, 2018 (細孔あり)

*藤平ら, 化学工学会第84年会, 2019 (細孔なし)

日大・安藤努研とのコラボ

対象：クロスフロー精密膜ろ過

解析②：粒子系

-圧力駆動流れ（基板に垂直）-

*T. Ando, K. Akamatsu, S. Nakao et al.,
Journal of Membrane Science **392-393** (2012) 48

工学院大・中尾赤松研，日大・安藤努研とのコラボ
対象：デッドエンド精密膜ろ過

準備①：強度の支配因子

- 凝集体強度 Rumpfの式 -

Rumpfの式

式から推測される検討要素

$$\tau = \frac{\varphi_p n_c F^{\text{coh}}}{\pi d^2}$$

平均構造
付着力
剪断応力

&

全体構造（形，分布）
追加付着力（壁）

準備②：流体剪断応力の無次元化

- 具体的な定義とその構成 -

流体

$$\tau_f = \mu \dot{\gamma}$$

粒子

$$\tau_p = \frac{F^{\text{coh}}}{d^2} = \frac{A}{24\delta^2} \cdot \frac{1}{d}$$

*付着力；
van der Waals力型を想定

$$\tau_p = 4.2 \times 10^5 \left(\frac{A_{-20}}{\delta_{-10}^2 d_{-7}} \right) \text{ [Pa]}$$

$$\tau^* = \frac{\tau_f}{\tau_p} = \frac{24\mu\dot{\gamma}\delta^2 d}{A}$$

無次元剪断応力 τ^* ：拮抗する力で相対的に捉える

前計算

- 凸状初期凝集体の作成: SNAP-L -

視点：横

$\theta = 60^\circ$

視点：上

ランダム
非接触

凝集
接触

- ・ 粒子の閉じ込め→放物面状の液滴
- ・ ランダム配置

- ・ 引力系でブラウン運動
- ・ 引力のお陰で領域中心に凝集

モデル方程式①

-流体-粒子連成: Immersed Boundary法 -

質量保存 (非圧縮) $\nabla \cdot \mathbf{v} = 0$

運動方程式
$$\frac{\partial \mathbf{v}}{\partial t} + \mathbf{v} \cdot \nabla \mathbf{v} = -\nabla p + \nu \nabla^2 \mathbf{v} + \frac{1}{\rho_f} \nabla \cdot \mathbf{S} + \Phi \alpha$$

対流項 $\text{Re} \ll 1$ 熱揺動項 粒子-流体連成項

流体力

$$\mathbf{F}^h = - \int_V \rho_f \phi_p(\mathbf{x}) \alpha(\mathbf{x}) dV$$

流体トルク

$$\mathbf{T}^h = - \int_V \{ \mathbf{r}_p(\mathbf{x}) \times \rho_f \phi_p(\mathbf{x}) \alpha(\mathbf{x}) \} dV$$

モデル方程式②

並進運動

$$m \frac{dv}{dt} = \overset{\text{接触力}}{F^{\text{co}}} + \overset{\text{付着力}}{F^{\text{D}}} + \overset{\text{流体力}}{F^{\text{h}}}$$

回転運動

$$I \frac{d\omega}{dt} = \overset{\text{接触トルク}}{T^{\text{co}}} + \overset{\text{流体トルク}}{T^{\text{h}}}$$

接触相互作用：離散要素法DEMのモデル

- 接触力：粘弾性

- 摩擦則：アモン | トン-クーロン則 (すべり)

$$|F_t^{\text{co}}| = \min \left(|F_t^{\text{co}}|, \mu |F_n^{\text{co}}| \right)$$

- ・オイラー・ラグランジュ描像（流体：連続，粒子：離散）
- ・粒径以下の流体解像度にして混合体の運動を捉える

本計算

- 単純せん断場の印加: SNAP-F -

形状調整は
閉じ込める曲面, 引力で調整可能
だろうが, 今回はこれで調べる...

周期境界によって
格子状配置の付着物になる

剪断応力 τ^* : 0.01 - 5.0
印加ひずみ ε : $\dot{\gamma}t = 100$

&

摩擦係数 μ : 0, 1
周期長 : 11d

結果 (SCEJ87)

- 静止画 $\tau^* = 1.0$ -

印加歪み $\varepsilon = 0$

$\varepsilon = 10$

$\varepsilon = 100$

摩擦なし

摩擦あり

補助線

凝集体の振る舞い (SCEJ87)

- ・凝集体上部から解れる
- ・摩擦ありの場合、
回り込みが誘起される

- ・基板側・溶媒側にそれぞれに移動
- ・基板への再付着がおこる
- ・基板上粒子は剥離しにくい

結果 (SCEJ87)

- 基板上粒子数 @ $\varepsilon = 100$ -

画像@ $\tau^*=1.0$

基板上的粒子：全て取れる訳ではない

設定量の俯瞰

- 調べる範囲 -

基板-粒子間の付着力を調節してみる

結果 (SCEJ88)

- 基板上粒子数 @ $\varepsilon = 100$ -

弱い基板-粒子付着力 → 除去へ進む

除去の様子

- 動画 $\tau^* = 0.1$ -

$\lambda = 0.1$

基板-粒子付着力: 弱

$\lambda = 10$

基板-粒子付着力: 強

提案と将来

[提案] 効率的な除去の考案につながる

[将来] 除去効率を付着量と投入仕事で計算

効率的な剥離シナリオの案

- ・凝集体を軟らかい凝集塊として維持
摩擦を付与, 解砕せん断応力辺りで凝集塊を維持
流体力で凝集塊を移動させる
- ・基板-粒子間の付着力を下げる
粒子の基板再付着を防ぐ